

日本鳥類標識協会大阪大会 シンポジウム
開催趣旨
淀川口 2 級ステーション
ー 鳥類標識調査データを活用した総括の試みー

日本における鳥類標識調査の要となる調査地には「鳥類標識ステーション」が設けられています。このうち、調査・滞在のための施設が整備されている 1 級ステーションが 7 箇所、そうした設備のない 2 級ステーションが 53 か所、計 60 か所が設けられており、毎年提出されている標識調査の報告書では、これらステーションを軸とした結果整理が行われます。

大阪は、その一端を担う「淀川口 2 級ステーション」として選定されています。「淀川口」なのであって、淀川はもちろんですが、そのまわりの都市部、丘陵地、山地に至るまで、淀川流域をとりまく大阪府域一帯がこのステーションの守備範囲です。

設定からまもなく 40 年を迎える当ステーションですので、年次報告の集積も相応のものとなり、その調査成果を総括的に捉えるには十分な時間を経ていると考えられます。このたび、標識協会が始まって初の大阪大会が実施される運びとなりましたので、この課題に取り組む絶好の機会になると考えました。

淀川口における、多岐に渡る調査の結果を概観するために、環境省が所有する、提出済みの鳥類標識データを利用することにしました。標識調査の結果として、有効活用が望まれているこのデータについて、様々な観点からの整理を行い、淀川口 2 級ステーションが、総体としていかなる成果を上げてきたのかをご紹介します。そのあと、様々な環境における標識調査の具体的な成果と着目点として、淀川のヨシ原の様子を久下直哉氏に、市街地の都市公園での様子を和田岳氏に、周辺の山林における調査状況を関優氏にご紹介いただきます。

続いて第二部として、大阪で実施された、個々の特色ある標識調査等をご紹介します。地元商店街との密接な関わりで続けられているツバメの標識、関西国際空港の余地で繁殖するコアジサシの標識は、いずれも長期間にわたって大きな成果を上げているものです。また、府下は箕面、生駒山系、岸和田、河内長野と、それぞれに取り組まれているのがフクロウの巣箱標識です。その中でもっとも多くの標識数を上げている北生駒の調査について、その調査全体のコンセプトや手法、そして標識放鳥の成果についてもご紹介します。

これら両面におよぶ調査状況を踏まえて、淀川口 2 級ステーションがこれから進むべき方向性について、検討していきたいと思えます。なお、本講演と関連の発表は、環境省鳥類標識調査データ利用許可（山階保全第 30-69 号）を得て取得したデータに基づいて行うものです。

シンポジウム発表

第1部 淀川口2級ステーションにおける標識調査

熊代直生 鳥類標識調査データを活用した「淀川口2級ステーション」の俯瞰

久下直哉 大阪府のオオジュリンの標識情報 淀川の調査を中心に (ヨシ原)

和田岳 長居公園における標識調査～ヒヨドリを中心に～ (都市公園)

関優 むろいけ園地における標識調査 (山林)

第2部 大阪発・繁殖鳥バンディング

福岡賢造 大阪府河内長野市におけるツバメの標識調査とイソヒヨドリによる捕食の増加について

村上亮 関西国際空港におけるコアジサシの標識調査

谷川智一 北生駒地域におけるフクロウの巣箱調査～鳴き声による個体識別の活用

熊代直生・古園由香・村上亮・関優・村濱史郎・谷川智一 北生駒地域におけるフクロウ雛の標識放鳥